

刺咬症 … 動物に刺されたり咬まれたりした時

はじめに

動物に刺されたり咬まれたりすると、その傷そのものよりも多くの雑菌やウイルスによる汚染、感染、毒による様々な症状が問題になります。

哺乳類（イヌ・ネコ・ヒトなど）による咬傷

- 一般的に哺乳類の口腔内には多くの雑菌が存在します。そのため咬まれると汚染の程度が高く何らかの感染をする可能性があります。

応急手当

- すぐに水と石鹼で傷口をよく洗う（唾液をしっかりと洗い流すように）
- 綺麗なガーゼや包帯などで傷口を保護する

※イヌに咬まれると“狂犬病”を想像するかもしれませんが狂犬病はイヌだけが持つ病気ではなくすべての哺乳類に感染の危険がある病気です。
日本国内での発生は過去50年ありませんが、海外へ行った時には注意が必要です。

爬虫類（マムシ・ヤマカガシ）による咬傷

○ マムシ

- 体長は45cm～80cmほどで短く太い。毒は体の組織や細胞を破壊する。
- 咬まれた直後から電気が走るように痛みその後は熱い痛みへと変わる。
20～30分ほどで腫れ始め、咬まれた箇所から広がってゆくの
- 口の前の方に2本の毒牙があり咬まれると2箇所

※ハブもマムシと同じ毒を持つが日本では沖縄以南にしか生息していない。



○ ヤマカガシ

- 体長は80cm～1m40cmほど。毒は血小板を破壊する。
- 咬まれた直後は症状が出ず数時間～1日経って突然全身から出血をする。
- 口の奥の方に毒牙があり深く咬まれなければ毒は入らないことが多い。
- 毒牙とは別に首の付近に毒腺を持ちそこから毒を飛ばす。
目に入ると失明する恐れがあるのですぐに水で洗い流して病院へ行く。



応急手当

- 慌てずに落ち着いて安静にして身体全体を動かさないようにする
- 傷口は心臓よりも低くなるようにする
- 咬まれた所より心臓に近い部分をほんの少し縛る（縛りすぎは×）

注意事項

- × 傷口を切って毒を口で吸い出してはいけない（吸い出しは効果が薄い上に危険）
- × 慌て騒ぐ・走る・飲酒など血液の循環がよくなるようなことはしない（毒の回りが早くなる）

上記のへびに咬まれたら症状が出なくてもすぐに医師の診察を受けましょう！

ハチによる刺傷

- ミツバチ・アシナガバチ・スズメバチによる被害が多く毎年30名ほどの死亡者が出ます。
毒の影響は2つあり毒そのものによるものと毒に対するアナフィラキシー反応によるものに分けられハチ刺傷の死亡例の多くは[アナフィラキシーショック](#)によるものです。

○ アナフィラキシーショックとは??

・アレルギー反応の一種で症状が全身に及び重篤なものを言います。
薬で起こることが多いですが牛乳、卵、そばなどの食物でも発症します。
ハチの場合刺されてから数分～数十分で症状が出始めます。



[ハチに刺された時の症状]

通常は刺された箇所やその付近の痛みや腫れで済みますが多く刺されたりアナフィラキシー反応が起こると全身のじんましん 動悸 めまい 血圧低下 痙攣 虚脱 昏睡 呼吸困難 頭痛 嘔吐 下痢などの全身症状が出て最悪の場合は死に至ります。症状の発症が早ければ早いほど危険です!

応急手当

- 抗ヒスタミン軟膏（かゆみ止め）を塗って冷やす
- 針が残る場合は指ではじいて取る（つまむと針に残っている毒が注入されてしまう）
- 全身症状が出たり、多く刺されたりしたらすぐに医師の診察を受けましょう！

その他の刺咬症

○ ムカデ

- 肉食で牙の部分に毒を持つ、夜行性であり夜間に咬まれることが多い。
症状は痛み、しびれ、灼熱感、腫れ、発赤でほとんどは軽症。
応急手当:抗ヒスタミン軟膏(かゆみ止め)を塗る。

○ クラゲ類

- 触手に刺胞毒を持ち刺激によって発射され外敵に刺す。
症状は痛み、しびれ、脱力感。重症では筋肉痛、頭痛、嘔吐、めまいなど。
応急手当:刺された箇所に触れないように海水で洗い流し食酢があれば30秒ほど浸す。

○ 魚類

- 約200種類の魚が毒のトゲを持つ。魚毒は熱で分解しやすい。
症状は痛み、しびれ、腫れ。重症では嘔吐、下痢、腹痛、呼吸困難など。
応急手当:トゲが刺さっていれば抜き45度以下のお湯に30～90分浸ける。

※ 毒を持つ生物に刺されたり咬まれたりした場合、軽症であれば症状はその箇所だけに留まることが多いのでもしも全身に症状が及んだらすぐに医師の診察を受けましょう!